

令和7年度

碧山学校

地域とともにある学校づくり

第1学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

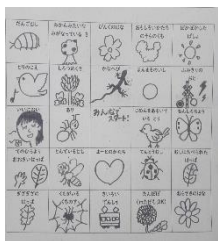
単元名： 「ちいきとなかよし」
(活動名)

ねらい： 身近な地域の自然や人との関わりを通して、西東京市への愛着
や地域の一員としての自覚を育む。

【5月9日】

生活科「きせつとなかよし はる」

「西東京市には、どのような公園や自然があるのだろうか」と、課題を設定した。東伏見公園に行き、「春探しビンゴ」を行い、草花や虫など春の自然を探した。身近な地域にも多くの自然があることに気付くことができた。



【11月19日】

生活科「きせつとなかよし あき」

「秋の自然にはどのような特徴があるのだろうか」と、課題を設定した。碧山森を訪れ、どんぐりや枯れ葉など、秋ならではの自然を探して集めた。持ち帰ったどんぐりを使って秋のおもちゃを作った。地域の自然に親しみ、季節の移り変わりを実感することができた。



【1月28日】

生活科「もうすぐ2年生」

「もうすぐ2年生になる自分たちにできることは何だろうか」と、課題を設定した。近隣の園児を学校に招き、交流会を行った。1年生と園児でペアを組み、教室案内をした。交流を通して、4月から2年生になる心構えをもつことができた。



【3月】

生活科「むかしあそびをたのしもう」

「どんな昔遊びがあり、どんな楽しさがあるのだろうか」と、課題を設定した。富士町地域包括センターから「チームオレンジきらら」の皆様に来校いただき、昔遊び交流会を行った。一緒に昔遊びを楽しむ中で、地域の方々楽しい時間を過ごした。



まとめ

生活科の学習を中心に、季節の自然に親しんだり、地域の方々や園児との交流をしたりする中で、課題をもって学習に取り組んだ。西東京市のよさに気づき、自分たちも地域の一員であることを実感することができた。

令和7年度

碧山学校

地域とともにある学校づくり
第2学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名： 「 えがおのひみつたんけんたい 」
(活動名)

ねらい： 地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりや、公共物のよさや働きを捉えたり、相手のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。

【6月25日】

学校の周りには、どんな人やどんな施設があるか出し合い、安全な歩き方や挨拶の仕方も確認した。実際に学校の周りを探検して、見つけたことや気付いたことを共有し合った。



【10月28日】

学校の周りにある地域の施設の人たちの「笑顔の秘密」を予想し、グループで質問を考えた。インタビューの練習も行い、はっきり話すこと、相手の目を見て話を聞くこと、しっかりお礼を伝えることなど、気を付けることやポイントを確認し、本番に向けて準備を進めた。

【10月29日】

グループごとに地域の施設を訪問し、実際に働いている方たちにインタビューをした。働く人たちの想いをインタビューを通して知り、「笑顔の秘密」を見付けることができた。



【12月6日】

町探検で分かったことをポスターにまとめてグループで発表した。各グループで見つけた地域の人たちの「笑顔の秘密」を共有した。友達の発表を聞くことで、自分たちがいった場所以外のことも知ることができた。



まとめ

今回の学習を通して、子どもたちは地域の良さや温かさに気付き、自分たちも地域の一員であるという意識を高めることができた。実際に見て、聞いて、感じる体験的な学びが、子どもたちの気付きや成長に繋がる貴重な機会となった。

令和7年度

碧山小学校

地域とともにある学校づくり

第3学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

【5月23日】

★カルタ講座



カルタでまちをおぼえよう



★西東京市カルタ製作過程、絵札・読札の解説から自分の住むまちを知り、関心を深めた。その後総合的な学習の時間にて個人で課題を設定し、調べ学習を行い、新聞形式でまとめ、発表を行った。

【9月30日】

★農のアトリエ蔵の里

農地・農家の仕事の紹介



★社会科「まちの人々の仕事-農家の仕事-」の学習で、農家の仕事と人々の生活を関連付けて調べたり考えたりできるよう、「農家の仕事」講義、「畑の散策」「農機具の見学」をさせていただいた。見学前に農業について、西東京市の畑で栽培されている作物や栽培方法の工夫を学び、学習のまとめを行った。

★住居に入り、暗さや温度を感じたり、土器や食べ物についてお話を聞いたりして具体的に想像することができた。歴史や生活、文化等について、社会科「西東京市の様子のおつきり」等で、土地や道具のおつきりかゝりの学習に生かした。

【10月31日】

★社会科見学

下野谷遺跡見学



【2月4日】★民具体験

★社会科「西東京市の様子のおつきり」の学習で、実際に西東京市内で使用されていた道具を持ってきていただいた。学習した内容と実物を照らし合わせて道具カードをつくり、時期ごとに分けて年表にまとめた。



まとめ

総合的な学習の時間、社会科の学習を中心に、教育部地域学習推進課連携プログラム、まちなか先生、公民館、図書館等と連携し、西東京市の歴史や文化、地域の特色について教えていただいた。実物を見たり、手で触れたりする体験が、学びを深めることにつながっていた。

令和7年度

碧山学校

地域とともにある学校づくり

第4学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：**「碧山小藍染プロジェクト」**
(活動名)

ねらい：

藍を育て、藍染の製品を作る過程を通して、藍の歴史・文化・情報発信・販売方法など、生産から消費までの流れを自分たちで体験することができる。

【4月～7月】

藍について調べ、藍を育てよう

藍の育て方や歴史などについて各自課題を設定し、その課題について調べ、スライドにまとめて発表した。調べたことを生かしながら、藍を実際に育てた。



【10月～11月】

藍染めの染め方を調べ、自分のTシャツを染めよう

藍染めの方法にはどのようなものがあるのか調べてまとめた。

自分のTシャツを染めるにあたり、どこにどのような柄を作るかデザインを考え、実際に染めた。

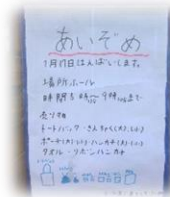


【12月～1月】

藍染め商品の販売をしよう

Tシャツづくりの経験を生かして、藍染め商品の販売を行うことにした。商品制作・ラッピング・宣伝の3つのグループに分かれて準備を進めた。

1月の学校公開の際に、自分たちで作った商品の販売を行った。



【1月】

売上金の使い道について考えよう

藍染め販売での売上金の使い道について考えた。どのような使い道があるのか考えたり、調べたりして話し合いを行った。

まとめ

昔、西東京市(保谷市)で栽培が盛んだった藍を実際に種から育てて藍染の製品を作る過程を通して、藍の歴史・文化・を学ぶことができた。また、情報発信・販売方法など生産から消費までの流れを体験することができた。ポスターやホームページ(西東京市タブレットでのみ閲覧可能)を作成し学校外への発信をする経験もできた。

令和7年度

碧山学校

地域とともにある学校づくり

第5学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：「地域のくらしを幸せに」
(活動名)

ねらい： 高齢者の心と体や、地域の高齢者福祉について知り、高齢化には様々な課題があることや、高齢者の思や願いを理解するとともに、地域の高齢者福祉の充実に向けて解決策を練り、実現可能な手段を選ぶことを通して、地域の人々に働きかけることができる。

【11月10日】

☆西東京市の高齢者について学習。

富士町包括支援センターの方に来ていただき「高齢者福祉や認知症」について学習した。

紙芝居、実際に認知症の方とのコミュニケーションなどを通して、正しく理解をすることができた。



【11月17・26日】

☆老人介護施設訪問

施設や、そこで働く人たちの様子を見学した。

入所している高齢者とのコミュニケーションを通して、地域の高齢者福祉の様子や認知症の実態を知ることができた。

歌を歌ったり、リコーダーの演奏を聞いていただきましたりしてきました。

【12月15日】

☆介護用具体験

・地域の事業所の方々にご協力いただき、介護用具（杖、車椅子（自走式、介助式）、歩行器、車（リフトタイプ）、マットセンサー）を体験した。

・介護する側、介護される側それぞれのことを思い、実際に体験することによって、自分や自分の家族のことに考えを巡らせて活動を行った。

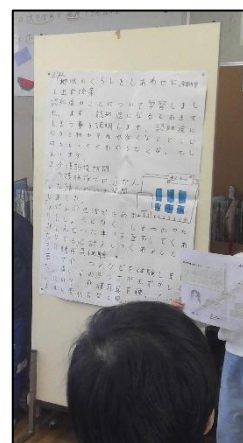


【1月17日】学校公開

☆本単元で学習してきた内容をまとめる。

・西東京市の高齢者福祉問題の課題を考え、自分がどのように関わっていけるか探究学習を行い、保護者の前で発表を行った。

・自分の家族、西東京市の課題から、今後の日本の課題でもある人口減少や少子高齢化などにも触れ、キャリア教育に繋がった。



まとめ

- ・高齢者や高齢者福祉に携わっている方の生活や思い願いに触れ、高齢者にとって「地域のくらしを幸せに」の実現のために自分ができることを考えたり、自分の考えを深めたりすることができた。
- ・高齢者福祉について関心を持ち、課題を自分事として受け止め、社会の一員としての自覚をもって自分にできることを考え、進んで実行しようという思いをもつことができた。

令和7年度

碧山学校

地域とともにある学校づくり
第6学年

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：「アントレプレナーシップ教育」
(活動名)

ねらい：西東京市の特色である野菜の栽培・販売活動を通して、地域の産業や人々の願いを捉え、自ら課題を見つけ解決しようとするアントレプレナーシップを育む。活動を通じて、地域社会の一員としての自覚をもち、西東京市の魅力を発信することで、地域の人々が街への親しみを感じられるような働きかけを行う。

【5月13日～】

西東京市の特色である地域の野菜に親しみをもってもらうと、植物の苗を育て、保護者や地域に販売する計画を立てた。7人で会社を立ち上げ、社長、会計、製造など得意なことを生かす役職を一人ひとりが決めた。地域の花屋などでの市場調査の後、西武信用金庫の方をお招きし融資を受ける体験をした。融資を受けられるまで価格や商品計画を見直し、役職に応じた説明を行う力がついていた。

【9月26日～】

総合「届け、夢のチカラプロジェクト」

5年で学習したSDGsを実践するために、地域のみならずを集め難民の子供に届ける「届け、夢のチカラプロジェクト」に参加した。出身保育園や児童館など、地域で周知できそうな場所を決め、宣伝方法や内容も考えて周知する力が伸びた。そして、3週間の回収期間で1万着以上の洋服が集まり、難民の子へ送ることができた。



【7月11日】

ついに販売。よりたくさんのお客さんが来てくれる方法を考え、宣伝担当手作りのポスターを学校の周りに掲示した。そのおかげでたくさんの方に来校いただいた。利益が出た会社、経費が回収できなかった会社、いろいろだったが、トライ&エラーの精神が育った。



【12月6日】

図工/総合「願いの木」

展示会を地域の子供達とともに盛り上げようと、ホールに「願いの木」を作った。6年生みんなの願いを葉として飾った後、展示会当日に地域の子供達が参加できるワークショップを行った。

願いを書いてもらった紙をその場で木の実として飾り、「願いの木」を完成させていくことができた。たくさんの人に参加してもらい、木の実がたわわになった素敵な木になった。地域と活動する楽しさを感じることができた。



まとめ

6年間の学習を生かし、自ら学習を進めていく力がついた。その力を使って、どのように地域に手伝ってもらおうのか、どのように地域を盛り上げていけるのか、考えていくことができた。地域に住む一人の人間として、地域とどう関係していくのか中学校に行っても考えてほしい。